

議会運営委員会・議会活動活性化委員会 合同視察報告書

令和7年11月10日（月）～11月11日（火）
山ノ内町・佐久市・小諸市

議会運営委員会
議会活動活性化委員会副委員長 小口智世

1 山ノ内町議会

「予算決算審査委員会の運用について 広報委員会の常任委員会化について」

①予算決算審査委員会について

平成29年3月議会まで、予算決算審査は特別委員会を設置し、3部会に分かれて審査していた。平成29年6月議会から、議長諮問により常任委員会にしたが、前町長時代は協議により、補正予算の審査をしないこととなっていた。令和5年に平澤町長になり、しっかり委員会付託をして審査した方がいいということになり、補正予算についても予算決算審査委員会で審査することになった。委員会は議長を除く13名で構成。総務産業常任委員会と社会文教常任委員会それぞれで所管費目を審査し、全体委員会でさらに検討。政策提言に準じる形で部会意見を付けている。補正予算についても部会意見を付けることがあり、後で報告をもらっているとのこと。

箕輪町には予算決算審査委員会がなく、委員会付託審査で質問して回答を得るのみ。すぐに予算決算委員会を設置するのは難しくても、委員会で意見を付けてきちんと報告をもらうことはすぐに取り入れられると思った。

②議会改革の取り組み

毎年議会報告会を実施していて、今年度で19回目。パワーポイント資料を作成して説明したり、小グループで意見を言いやすいように工夫したりしている。地方紙に、議員から町職員へのハラスメント事例の記事が出たことから、職員アンケートを実施。現在、ハラスメント防止条例を制定中。
広報委員会で、facebookを活用し情報提供しているとのこと。箕輪町の場合、一般質問の情報などを町のHPに見にいかないといけないため、速報性があつていいと感じた。

2 佐久市議会

「議員報酬の引き上げについて。議会BCPの策定について」

①議員報酬の引き上げについて

佐久市議会の議員報酬は、平成17年の新市合併時、月額349,000円。平成22年と平成29年の報酬等審議会において、いずれも「据え置き」の答申があった。議員定数については、平成17年34人、平成21年は28人、平成29年は26人と、議会改革研究会での検討などにより議員数を減らしてきた。成り手不足解消の面からも議員報酬の見直しが必要となった。3つの視点「議員の活動量」「他議会との比較」「常勤公務員との比較」から検討、市民とも話し合いの機会を持った。市長に405,000円で諮問。同額で返答があったが、議員定数の検討という付帯意見が付いていた。直後に台風19号で被害が発生。市民感情を配慮して棚上げとなっていたが、令和6年4月1日に405,000円になった。議員定数は2名削減の24人となり、令和7年4月の市議会議員選挙から施行。

報酬の引き上げや議員定数の検討にあたり、市民との意見交換会や、無作為抽出の市民アンケートなど、丁寧に市民の声を集められたというのが印象に残った。

②議会BCPについて

大規模災害などの非常事態においても、議会機能の維持を図るため、「佐久市議会鉱務継続計画（議会BCP）」が策定された。

「オクレンジャー」を使ったり、タブレットでカメラ機能を共有したり、実際の災害時にはどのように連絡を取り合うかを実用的に検討されている点が参考になった。

3 小諸市議会

「議員報酬の引き上げについて」

平成10年時点では、議員定数は26人、議員報酬は333,000円。議員定数は段々削減されて、令和5年時点では19人。議員報酬は26年前と同じく333,000円。議員定数及び議員報酬等検討委員会で、令和5年12月から審議を開始。定数検討班と報酬検討班に分かれて資料を作成し、議員全体協議により資料を作成。令和6年8月に、議長に委員会としての中間報告を提出した。市民アンケート、パブリックコメント、市民説明会などを実施。令和6年12月に最終報告書を作成した。令和7年12月議会定例会で、議員定数18人、議員報酬353,000円で条例を改正予定。

特別職報酬等審議会の審査では、①議会への理解を深めるために、議会活動を見る化すること、②成り手不足の解消について、議員報酬だけではなく他の方策も検討すること、③市民の声を聞くだけでなく、課題解決の具体的な対策を考えて、議会全体としてまちづくりに参画すること④情報発信について、有効に行って議会への関心を高めるように努めること、といった付帯意見が付いたとのこと。何れも、箕輪町議会においても必要と感じた。

全体を通じて

議会改革や報酬の引き上げ等、資料や数字では分からない、温度のあるエピソードをお聞きでき、参考になった。箕輪町にも活かしていきたい。